

穂 学

平成30年度

広州日本人学校学校便り

[No. 7]

平成30年 10月17日(水)

発行責任者 教頭 渡邊美佐子

考えて欲しいことと身につけて欲しいこと

校長 丸本 亙

国慶節が過ぎ、やや涼しさを感じる頃となりました。今月末には、学習発表会が予定されています。子どもたちは、発表に向けて日々真剣に取り組んでおり、校内には、歌声や劇の台詞の声等が響いています。

さて、「一人ひとりの子どもが、生き生きと自分の個性を発揮し、自由に伸び伸びと逞しく育ってほしい。」という願いは、家庭と学校の共通した願いだと思います。しかし、この個性や自由を大切にあまり、表裏一体である「規律やきまり」を忘れがちになっていないでしょうか。「豊かな個性は、基礎的・基本的な学力に支えられ、基本的な生活行動様式の定着によって花開く。」とされています。規則・規律・ルール・エチケット・約束などは、広い意味で「きまり」と言えます。社会生活を送っていく上で、「きまり」は無くしてはならないものです。民主主義の社会では、「自由」が最も大きな価値があるものとされていますが、「自由」を拡大解釈しすぎると、自分勝手な行動が増えまとまりがつかなくなることもあります。そこで、「規律やきまり」が大切になってくるのだと思います。学校ではこの「自由」と「きまり」の価値を子ども達に理解してもらえるようにじっくりと指導していかなくてはいけないと感じています。最近、「けじめを付けること」「決まりを守ること」を嫌がり、軽視しがちな様子が見られます。子ども達のよりよい成長を願って、もう一度「きまり」についてしっかりと考え、個性豊かで生き生きと逞しく生活できるような子ども達に育てていきたいと思っています。

また、学校ではコミュニケーション能力を向上させることも重視しています。学級の中で言い争ったり、けんかをしたりすることが多々あるようですが、その原因の中に自分の考えをうまく表現できない、自分の伝えたい事が上手に伝えられない、相手の言うことをじっくり聞こうとしない等があるようです。つまり他の人と上手に関われなかったり、他の人の気持ちを考えないで行動してしまったりする場面が時々あるのだと思います。子どもたちと会話をしている時にも感じる場合があります。単語の羅列できちんとした文章として返ってこない、こちらから尋ね返さないと必要な事が伝わってこない、表現できる語彙が少ない、正しく敬語、丁寧語が使えない等です。相手に伝える要素として5W1Hがあります。「いつ、だれが、どこで、なにを、なぜ、どのように」をきちんと整理して伝えることを日頃から習慣づけておくことが大切だと思います。自分の思いや気持ちを上手に伝えられるよう、学校でも繰り返し指導し、コミュニケーション能力を身につけて欲しいと思っています。

音楽集会 9月26日

本校は年5回、音楽集会を行っています。今回は小学部5、6年生の発表で、「キリマンジャロ」を演奏しました。



生徒会任命式 10月16日

9月28日中学部の生徒会立会演説会があり、10月16日に後期生徒会役員の任命式が行われました。また、各委員会の委員長が、後期の目標を全校児童生徒に伝え、活動への協力を求めました。より良い学校づくりをめざして頑張ってくれることを期待しています。



校長室ランチ

本校では、各学年の行事前に校長先生が子どもたちを知るという意味で、お昼を一緒に食べながら、話をする機会をもっています。子どもたちは、校長室で食事をすることをとても楽しみにしています。

